《明るい家庭づくり運動》作文

簱本綾子さん快挙
県知事賞に輝く

昭和五十三年度〝明るい家庭づくり運動〟の作文の部に木場小学校六年生簱本綾子さんが知事表彰を受け、十一月八日県民会館で行われた実践発表会に君知事から表彰を受け、受賞者を代表し作文を朗読いたしました。簱本さんを祝すとともに、全文をご紹介いたします。

ゴールデンウィーク最後の日

木場小学校六年　簱本綾子

五月七日、今日はゴールデンウィーク最後の日だ。テレビでは、「この連休はどこも満員だ。」とかいって、家族連れで楽しそうにしているのがうつったりしている。友達も「会津へ行ってきた。」「デパート行って、修学旅行のときの服、かってもらった。」などとうれしそうに話していた。私の家は今、田植えで忙しい、どこもいかなかったし「連れてって。」ともいえなかった。そして最後の休みも今日で終わる。村中のほとんどの人達は町の総合体育館の落成記念行事のポーランドサーカスへ行ってい る。「ねえ、あっこ、私よ分の券があるから一緒にいこよ。」ときのう、由華子さんからさそわれた。でも、父や母が田植え仕事で精を出しているのにと思うと、「券もらわれるんだけどサーカスみにいってていい？。」とは言えなかった。

二番目の姉は、文通している友達のところへ行ってくる、と出かけたけれど私は、「サーカス見に行きたい。」とは、どうしても言えなかった。

田植えの身じたくをして父、母、一番上の姉、私の四人で車で、今日仕事をする田んぼへ出かけた。場所はなんという所かわからなかったけれど、田んぼ道に立つと、前方遠くにビルや、家、工場がならんでいる。新潟市の風景が目に入る。左側の方は、屋根がちらほら見える、そしてそのむこうに弥彦山と角田山がならんでくっきりと見える。右の方は私の部落、新田の家々が、なんだかひっそりとして見える。後ろには、でき上がったばかりでまだ使っていない高速道路の厚いかべがある。今日の仕事はここだ。私の持ち場は、ビニルハウスで育てた苗を、まきながら箱からとり出し、田植機で苗を植えている父に一往復ごとに渡す仕事だ。姉は空になった箱をあらう仕事。去年は私がやった箱洗いを今年は姉がやっている。なんだか私の方がえらくなったようでちょっぴりおかしい。父が一往復してきたら次の苗をちゃんと渡せるようにしなければならない私の仕事は、タイミングを合わせるのに気をつかう。でも苗をくるくるまいてると、根がとてもたくさん、とても根強くはっているのでびっくりする。箱の小さな穴から根がにょろにょろ出ている。「こんな小さな苗でもいっしょうけんめい生きようとしているんだなあ。」なんて思うと、小さな苗がかわいくなってくる。しかしそのままにしておくわけにはいかないので、箱からはがしてまきつける。すると根が、バリバリッと小気味よい音をたてて箱からはがれる。風もふかず、寒くもなく、暑くもない中で仕事は続いていく。午前中三時間びっしり仕事をし、ひとまず家へ昼上がり、家では祖母が昼食の仕たくをすませ、にこにこ顔でむかえてくれた。午後からは、父母、おじさん、私は田植えの続き。姉は祖母と畑の仕事。

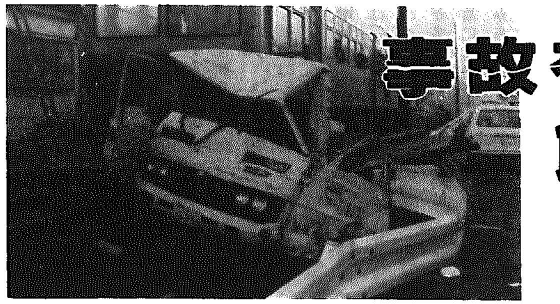
「あこー、いねこっちもってきてくれやー。」田んぼのむこう側まで苗のつまった箱をがんばってもっていく。

「はい、もってきたれ。」「おう。」からの箱を持ってもどる。おじちゃんに、

「おっちゃん、これあいたよう。」からの箱を渡す。おじちゃんは、さっさっと慣れた手つきでどろつきの箱をどんどんきれいにしていく。母はむこうで田んぼのゴミとり。熊手みたいなもので、よいしょっと田んぼにうかんでいるのをかきよせる。田んぼはどんどん緑に変わっていく。仕事が終わったのは七時ごろだ。あたりは日もくれてうす暗くなりかかっている。ああ、これで今日の仕事は終わりだ。思いきってぐんと立って、うううんと両手を空へ伸ばして伸びをした。腰がいたくて急には伸せない。目の前には、今日一日がかりで植えた苗が、黄緑色の葉を風にふかせている。用水は、田植えどきなので水を満々とたたえて流れている。そして石ころと草と土の道。いいなあ。この自然と仕事を終わって満足したこの気分。

ポーランドサーカスへはいけず、代わりに田植え仕事。「ゆか、ごめんね。せっかくさそってくれたのに。」でも、サーカス見にいけず、残念なんてこれっぽっちも思っていない。仕事の終わった田んぼを見ているうちに、「サーカスへはいけなかったけど、腰はいたいけど、農業っていいもんだなあ。姉の代りに農家ついでもいいかな。」なんてふと思った。「あっこ、帰えるろー、はよ車のれー。」父の太い声が背中の方でひびいた。

「はあい。」私は車の方へ走った。父の頭には、白がもちらちら増えてきた。



事故をよぶ!!
飲酒運転　雪の道

12月11日～1月10日　交通安全月間

いよいよ気象の変動が激しくなり、運転者にとって一番いやな季節がやってきました。

風雪の強いとき、路面が凍結しているとき、雪の降りがけなど、しかし気象条件は悪くても交通事故はみんなで気をつければ防ぐことができます。

恒例、冬の交通事故防止運動は十二月十一日から一月十日までの一か月間です。この運動は次のことを重点に行われます。

▼飲酒運転の追放

飲んだら乗らない　乗るなら飲まない　運転する人には飲ませない

▼スリップ事故の防止

雪道ではスピードは控え目に急ブレーキ、急ハンドルは危険

▼夜間事故の防止

運転者は歩行者、自転車に要注意。歩行者、自転車乗りは、目立つように明るい服装、反射テープを。

▼踏切事故の防止

踏切では必ず止まって確かめて

【冬期間臨時駐車禁止】

除雪作業などのため、十二月一日から三月三十一日まで、次のところが駐車禁止です。

○板井部落の村中

○新大野駅前から、五区までの堤防沿い

○大野町の市場通り

○興野高橋精肉店から笠木屋まで

降雪期です
除雪の障害は路上駐車！

新潟地方気象台の長期予報ではこの冬は早めにやって来て「大雪」とのことです。

これに備えて、町では除雪体制には万全を期していますが、私有物の路上放置、特に車の路上駐車が除雪の障害になり、除雪車の進行ができないことが、毎年、数回となく起り、多くの住民に迷惑をかける原因となっています。

※是非次のことを守って下さい。

一、道路上に車の駐車や物を放置しないように。

一、道路脇などに破損しやすい物がある場合、除雪員がわかるよう表示しておく。

一、道路上に突き出ている樹木の枝は伐採し、雪のため垂れ下ることのないよう補強する。

一、道路上を横断している架設物（ガス管など）が垂れ下っていたら四・五メートル以上の高さに直しておく。

❊

このいずれかが守られないと、除雪時間が遅れたり、中止せざるを得ない状態にもなりかねませんのでご注意を！

工業統計調査にご協力を

通商産業省では、今年も十二月三十一日現在で「昭和五十三年工業統計調査」を行います。

この調査は、製造業を営むすべての事業所と、その本店、支店を対象に実施されるものです。

年末・年始のお忙しい中を調査員が伺いますので、ご協力下さるようお願いします。

この調査によって、わが国製造業の実態や、製造活動の状況が明らかにされるほか、調査の資料は国民生活の中でも広い分野で活用されます。例えば、都市開発、下水道整備計画などの資料になり、また、各種製品の生産、販売計画を立てる場合にも参考になります。

提出された調査票は、統計以外の目的に使用することは絶対にありませんので、調査票には在りのままを記入して下さい。

〔調査の種類〕

甲調査――従業員三十人以上の事業所

乙調査――従業員二十九人以下の事業所

丙調査――製造業に属する本社・本店①製造工場を二工場以上経営する企業の本社②製造工場と別の場所にある企業の本社・本店

〔調査の項目〕

事業所名、従業者数、原材料及び燃料使用額、製造品出荷額等、有形固定資産投資総額（甲調査は十七項目、乙調査は十三項目、丙調査は十二項目です）